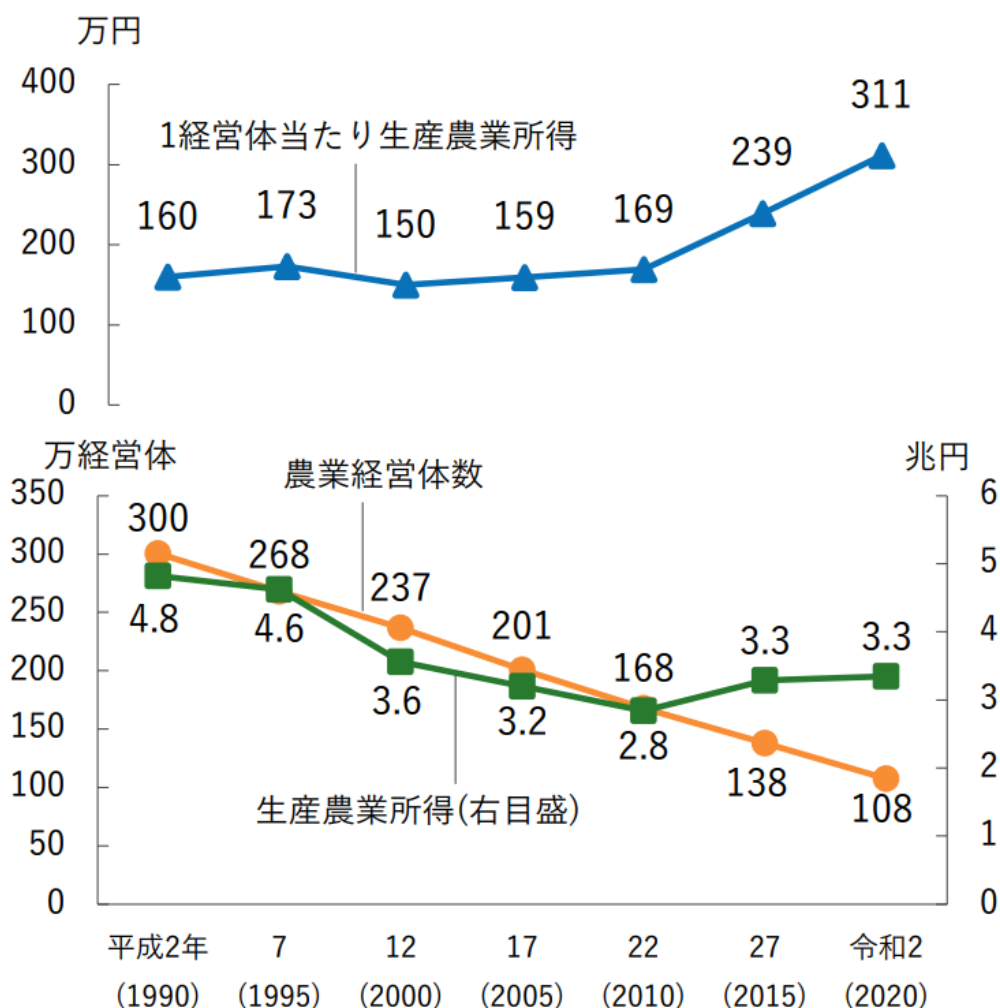


令和4年度職員採用試験（大学卒業程度）
農業 専門記述試験（4.6.19）

＝ 課 題 ＝

○需要の変化に応じた農業生産の取組について

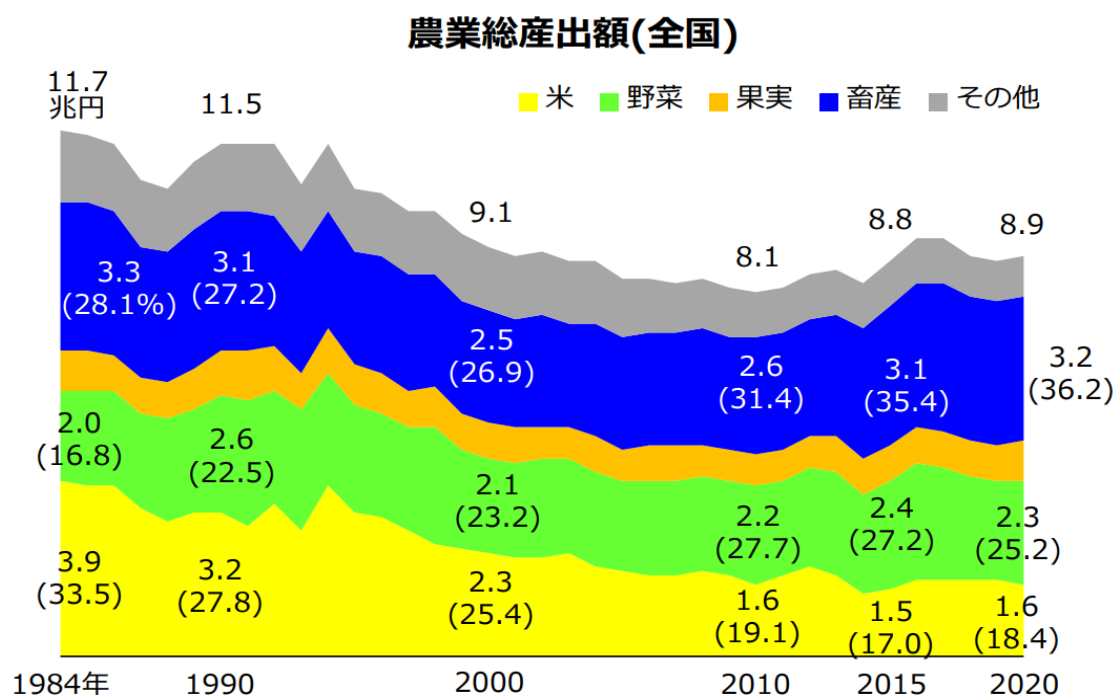
『令和3年度食料・農業・農村白書』によると，我が国の農業構造は，農業経営体数が減少している一方で，1農業経営体当たりの生産農業所得は増加傾向にあります【図1】。



【図1】 『令和3年度食料・農業・農村白書』から引用

また、農業総産出額は、ピークであった1984年から長期的に減少傾向が続いていましたが、需要に応じた生産の取組等により、2010年以降は増加傾向で推移しています。

これを品目別の割合で見ると、米は長期的に減少傾向で推移している一方で、畜産や野菜は増加傾向で推移しており、1984年と2020年の割合を比べると、それぞれ畜産で28.1%と36.2%、野菜で16.8%と25.2%となっています【図2】。

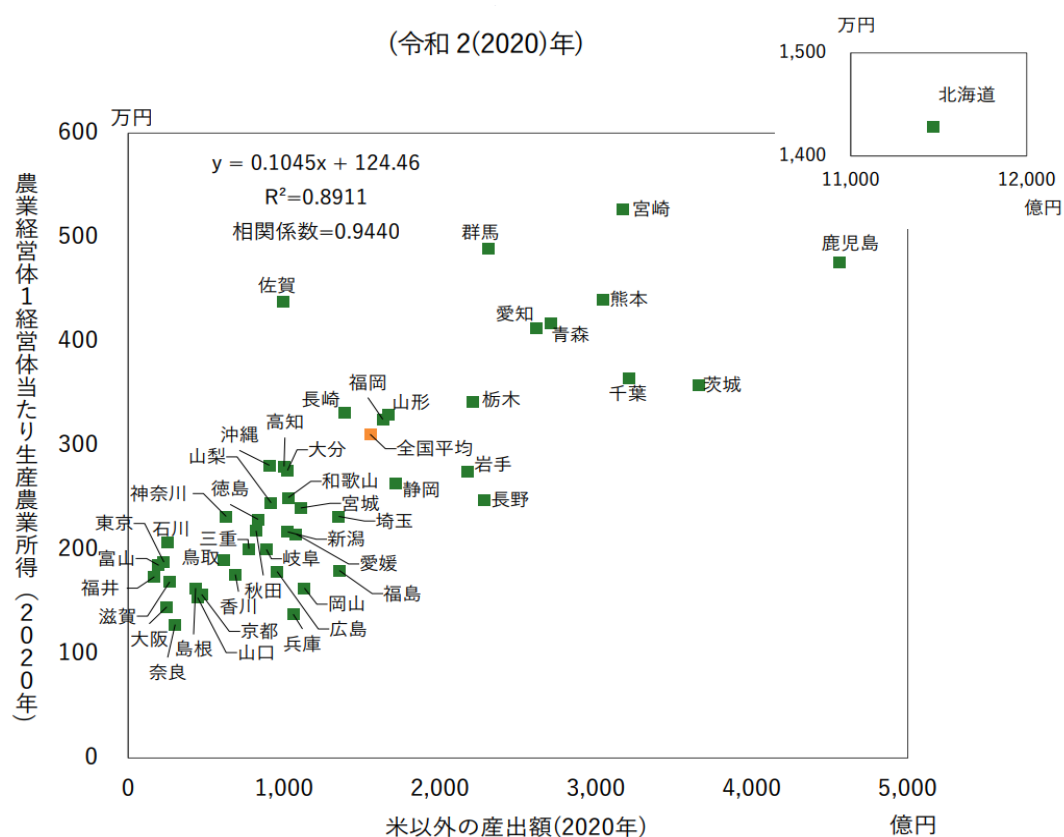


【図2】 『令和3年度食料・農業・農村白書』から引用

(注) ()内は、産出額に占める割合

さらに、米以外の産出額と1経営体当たりの生産農業所得の相関を都道府県別に見ると、米以外の産出額の大きい都道府県の方が、概して1経営体当たりの生産農業所得も大きい状況となっています。【図3】

特に、1経営体当たりの生産農業所得の大きい北海道や宮崎県、群馬県、鹿児島県等では、米の産出額の減少以上に、畜産物や野菜の産出額が大きく増加しています。



【図3】 『令和3年度食料・農業・農村白書』から引用

このように、農業の持続的な発展のためには、需要の変化に応じた生産を展開する取組が重要になるものと考えられています。

そのような中、広島県では、令和3年3月に「2025広島県農林水産業アクションプログラム」を策定し、生産性の高い持続可能な農業の確立に向け、企業経営にチャレンジする経営力の高い担い手が、自ら市場動向等から高収益作物を選定し、周辺の農業者を巻き込みながら産地を形成する取組を進めています。

そこで、あなたが県職員であれば、今後、広島県の農業生産を拡大していく上で、どのような取組を優先的に展開していくべきと考えますか。

次の①～④の中から項目を1つ選択し、農業を取り巻く現状・課題や中山間地域が多くを占める本県の実情等を踏まえた上で、その項目を取り上げた理由及び自らが取り組みたい具体的な内容について、それぞれ2つずつ述べなさい。

【項目】

- ① 地域の核となる企業経営体の育成
- ② スマート農業の実装等による生産性の向上
- ③ 新規就業者など新たな担い手の確保・育成
- ④ 担い手への優良農地の集積と農業基盤の整備